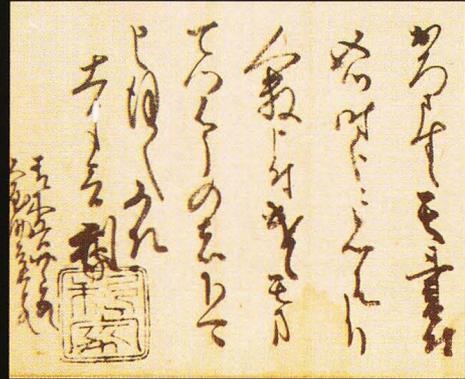


平成13年度特別展

前田家三代

～「加越能文庫」史料とゆかりの地を訪ねて～



近世史料館

特別展「前田家三代」展

開催にあたって

金沢市立玉川図書館では、近世史料館の開館に伴い、広く所蔵史料に接していただくため展示室を設け、以来年に四・五回のテーマ展示を行ってまいりました。

この中で、昨年度は特別展示として、「子ども読書年」を記念して「子どものための金沢のれきし展」を開催いたしました。

本年度は、特別展として「前田家三代―加越能文庫史料とゆかりの地を訪ねて―」を開催することになりました。

展示内容は、前田利家・利長・利常の三代にスポットをあて、三代の事跡を辿り、その歴史を史料によって見ていこうとするものです。

三代の歴史は、郷土の歴史の中で城下町金沢が建設・展開・成立をなす時期に相当し、近世金沢の幕開けを前田家三代の歴史の中に見ることができるとは、ないでしょうか。

従来、展示資料は近世史料館という性格上文書が中心となり、これが展示の上でも特徴となる訳ですが、文書史料のみでは親しみにくいこともあり、前田家三代の画像など、文字史料以外の資料展示の出品も考慮しました。

当館所蔵の文字史料以外の資料については、各機関の所蔵資料ならびに個人所蔵資料について、各位のご理解・ご協力を得て展示することができました。末尾になりましたが、調査へのご協力をはじめ、資料の借用をご許可いただいた各位に対し、心よりお礼申し上げます。

平成十三年八月

金沢市立玉川図書館

近世史料館



1 前田利家画像 一幅

紙本着色
安上桃山、江戸時代初期 十六〜十七世紀
石川県指定文化財
六〇・〇×三八・〇
石川県金沢市・中山家

現存する利家の画像の中でも特に著名なもので、戦前の歴史教科書にも登場した。

梅鉢紋を散らした羽織姿で脇息にもたれかかる平穏な姿、前を見据えるおだやかな表情などは、同時代の肖像の中でも群を抜いて優れており、その生き生きとした描写などから、利家が生前に書かれたものとする説が強い。

本画像を所蔵する金沢市中山家の先祖中山主計は、天正十一年（一五八三）豊臣秀吉とともに、利家が金沢城に入城するに際し先導役を勤めた宮腰（現金石）の有力者であった。

2 前田利家画像 一幅

紙本着色
江戸時代 十七世紀
七尾市重要美術品
四九・四×三二・五
石川県七尾市・長輪寺

青年時代の利家肖像として唯一伝わっているもの。扇子を持ち、細面に口髭を蓄え鋭い眼差しを面持ち、野心に充ちた若き戦国武将利家らしい精悍なものである。肩衣袴で後ろに太刀を立て掛ける画面構成は、戦国武将の肖像画に多く見られる。この太刀と脇の文机により、文武両道に精進する姿をあらわしている。



3 芳春夫人尊像 一幅

絹本着色
篠原探谷筆
明治時代 十九世紀
七八・二×四二・二
成巽閣

明治二十五年（一八九二）に、前田家が篠原探谷に命じて模写した、利家夫人芳春院の肖像画。
原本は石川県金沢市野田町桃雲寺が所蔵する。





4 利長公画像 一幅

絹本着色
江戸時代前期 十七世紀～十八世紀
八四・二×三三・五
富山県高岡市・長光寺

現存する画像の少ない前田利長肖像にあつて貴重な資料の一つである。鮮やかな色彩の衣冠姿で座し、右手には山水画が描かれた扇を持ち、梅鉢紋をあしらつた袴を身につけている。緻密に書き込まれた御簾との画面構成にも優れた作品といえる。
長光寺には、利長夫人である玉泉院の乳母小太夫が嫁いでおり、その縁により本画像が伝わつたとされている。

5 前田利常画像 一幅

紙本着色
江戸時代 十七世紀～十八世紀
一〇三・三×四八・八
石川県小松市・那谷寺

東帯姿で座す三代藩主前田利常の画像。古典的ではあるが、どっしりと安定した構成が印象的な坐像である。
利常は、改作法の実施や文化の奨励などで知られているが、江戸城の修築や領内社寺の復興、建立など様々な建築に対しても積極的であつた。この画幅が伝わる那谷寺も利常が建立したものである。



7 前田利家起請文 一通

続紙
天正十三年七月二十八日
二八・〇×八一・五
(財) 前田育徳会尊経閣文庫

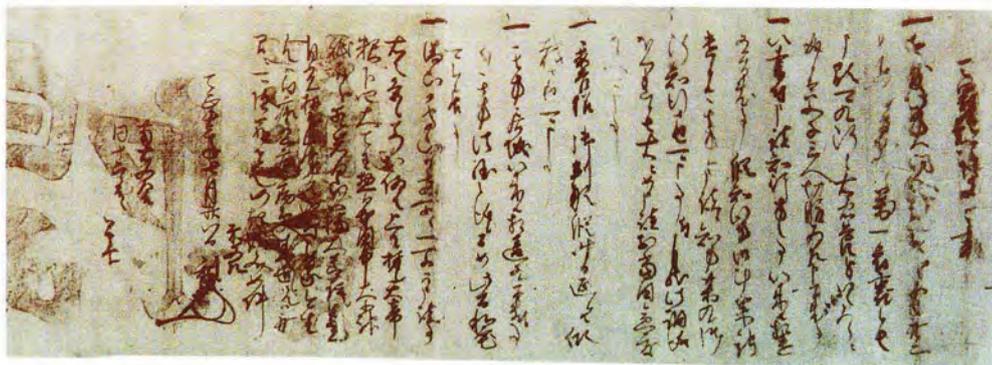
前田利家が、射水郡阿尾城(氷見市)の菊池父子に与えた誓紙。佐々成政との合戦を控え、前田家に内応した菊池氏に対する処遇などを約したものである。

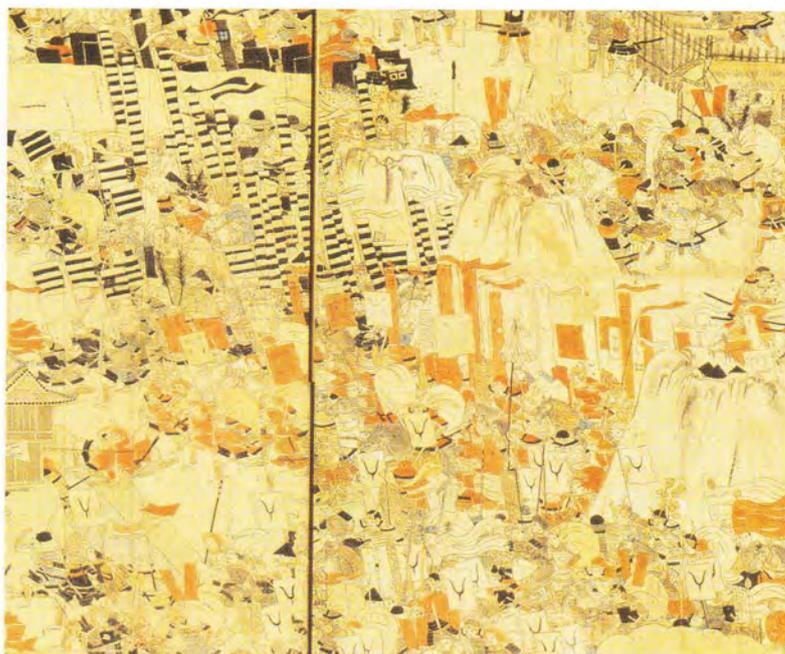


6 豊臣氏四大老連署状 一幅

折紙軸装
(慶長三年) 九月五日
三四・五×五一・〇
(財) 前田育徳会尊経閣文庫

五大老のうち上杉景勝を除く四大老から、毛利吉成以下朝鮮に出兵している武将に対しての撤退指令書である。宛名の武將名から、七軍までの派兵部隊のうち、第三軍に宛てたものであることが分かる。

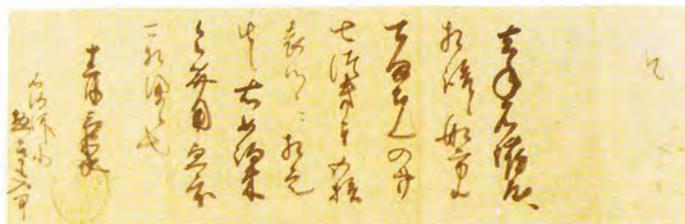
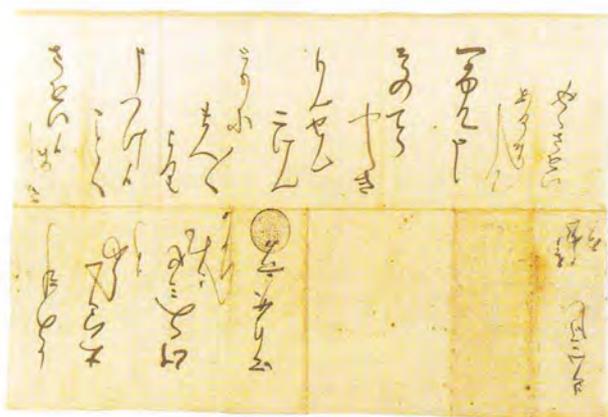




8 大坂冬陣図屏風 六曲一双

おおさかふゆのじんずぶらう
江戸時代 十八世紀
紙本淡彩
各一六六・二×三〇〇・九
東京国立博物館

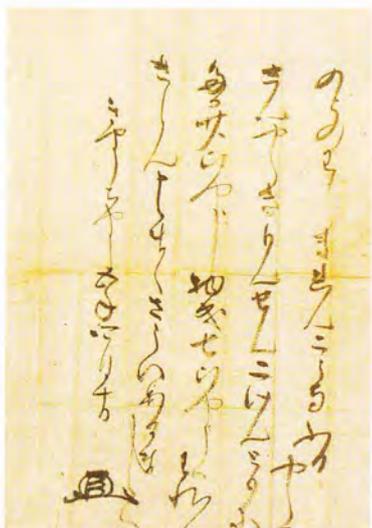
この屏風は、江戸時代後期の模本ではあるが、冬陣図屏風としては現存する唯一のもので、文献とも照合する部分が多く、史料的にもきわめて貴重なものである。
右隻では、右手に徳川家康、秀忠本陣が、左手に大坂城真田丸が描かれており、左隻では、大坂城を中心に天満橋、京橋などが描き込まれている。
なお、もつとも激戦地となった真田丸正面には、白黒段々の旗印の前田利常隊が陣取り、甚大な被害を受けながらも敵地に乗り込もうとする情景が盛り込まれている。



9 前田利家印物 一通

折紙
(文様) 十二月三日
三〇・〇×四七・〇
館蔵

朝鮮出兵に伴い、石河(川)・河北郡から徴発していた船への手間賃支払いを申し渡したものである。朝鮮出兵は、慶長三年(二五九八)八月十八日の秀吉の死去によって撤退がはじめられている。



10 芳春院寄進状 二通

切紙、折紙
慶長五年四月十日・四月二十六日
輪島市指定文化財
三三・五×二二・五
三五・〇×五〇・五
石川県輪島市・蓮江寺

慶長四年(二五九九)閏三月三日利家が没した。この時葬儀をとりおこなった金沢宝門寺の象山和尚が、隠居し輪島蓮江寺に移っている。翌五年四月、芳春院がこの蓮江寺に十石の土地を寄進した。芳春院は同年五月には人質として江戸に向かうことになる。



11 太閤御葬送図 一冊

年代未詳
二五・〇×一九・〇
館蔵

豊臣秀吉は慶長三年（二五九八）八月十八日に没したが、翌四年二月十八日に葬儀がとりおこなわれており、利家も五百人を従え参列している。葬送の様子を描いたものとしてはこの図があるのみである。

13 海賦文象嵌鏡 一双

加州住永国作
江戸時代前期
一三・六×二九・〇×二六・〇
東京国立博物館

江戸時代前期の作とされるこの鏡は、真鍮と銀を使い、意匠化された波、蛤、海草などが嵌めこまれている。加賀藩では、すでにこの頃には優れた象嵌鏡が製作されていた。

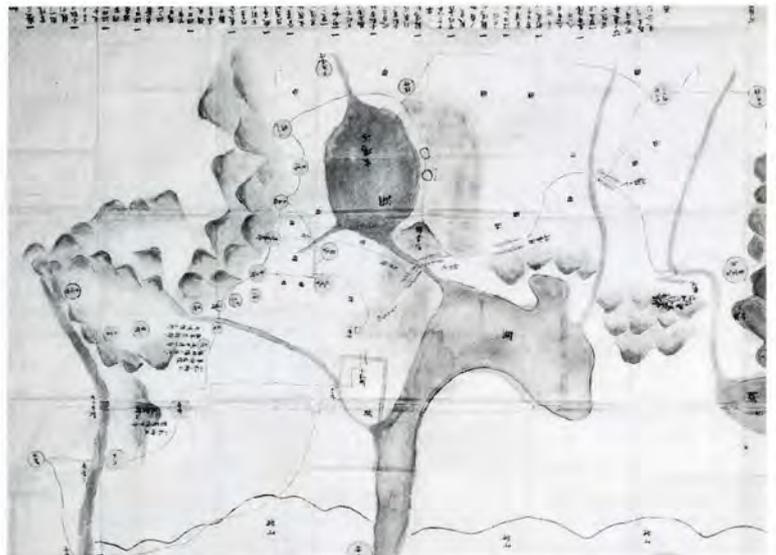


12 伝前田利家着用帷子 一領

年代未詳
丈一四五・〇×桁七〇・〇
石川県金沢市・中山家

帷子とは裏地のない単物で、下着としても使用された。この帷子は、宮腰（現金沢市金石）の家族中山主計が利家より拝領したと伝えられるもので、麻地に小紋を染め出し、梅鉢の三つ紋を配している。利家自身が着用したとされ、長身と伝わる利家の勇姿を想像させる大振りの作りとなっている。





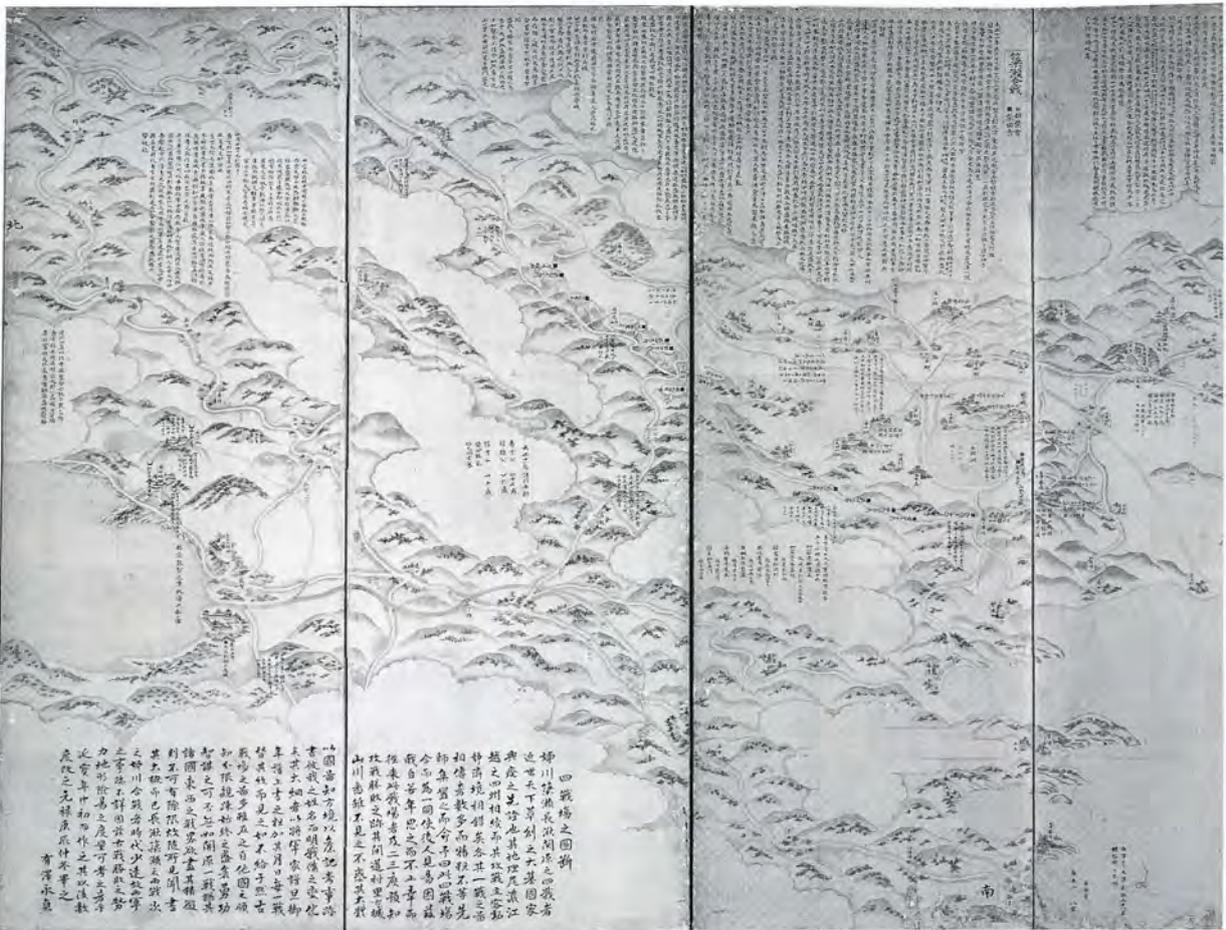
16 加州浅井田并覚書 一枚

年代未詳
九五・〇×一〇六・〇
館蔵

関ヶ原の役の北陸版ともいべき合戦のひとつに、慶長五年（一六〇〇）の浅井暲の合戦があった。合戦は、大聖寺城の山口氏攻略を果たした前田軍が、金沢に引き上げる途中、丹羽氏の居城小松付近を進行する際に勃発したもので、本図は周辺の位置関係を示したものである。

前田軍は大聖寺から月津、御幸塚を経て南浅井への道をとるが、小松城の物見に見つかり合戦となった。現在、浅井暲古戦場跡にはこの時の戦没者の墓が残されている。

本図は、正保四年（一六四七）六月十八日に、成田半右衛門が作成したもの。の写。



17 姉川・築瀬・長湫・関原四戦場之図 一双

有沢永貞著、岡野温厚筆画
元禄十三年
一三四・〇×二九三・〇
館蔵

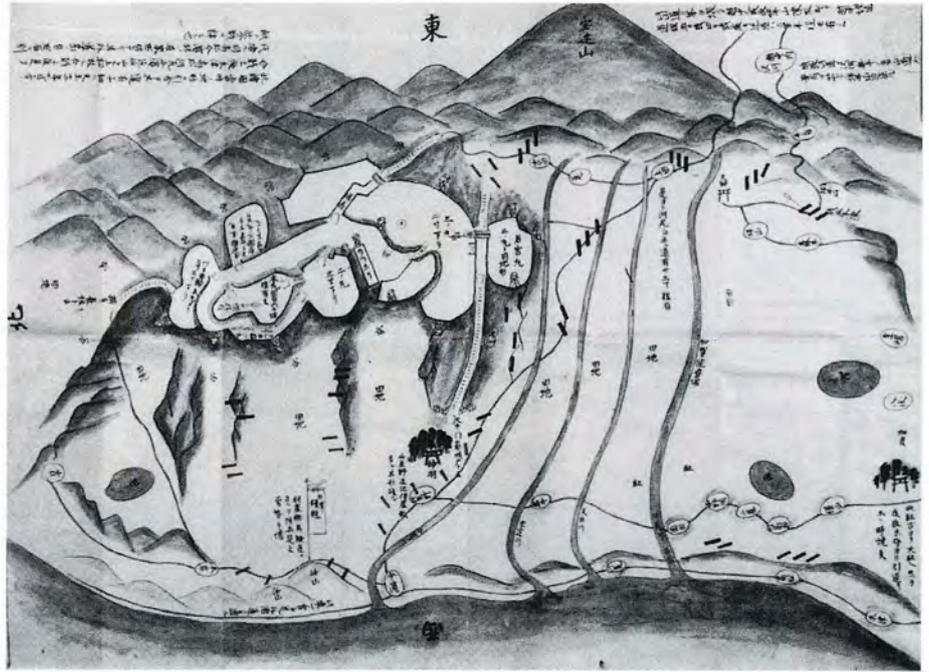
戦国史に名を残す四つの合戦について描かれた陣立て屏風。

右隻には、姉川と梁瀬（賤ヶ岳）の戦い、左隻には長湫（長久手）と関原（関ヶ原）の戦いが描かれている。

右隻中梁瀬の戦いでは、前田又左衛門（利家）と息子孫四郎（利長）が内中尾の柴田勝家陣近くの砦を守り、柴田方の佐久間玄蕃とともに針ヶ浦畔に布陣している様子が描かれている。

佐久間軍の敗走後、前田軍は塩津から木目峠を越え、越前府中へ退却した。

兵学者の有沢永貞が軍学上の史料としてこの屏風を作成した。



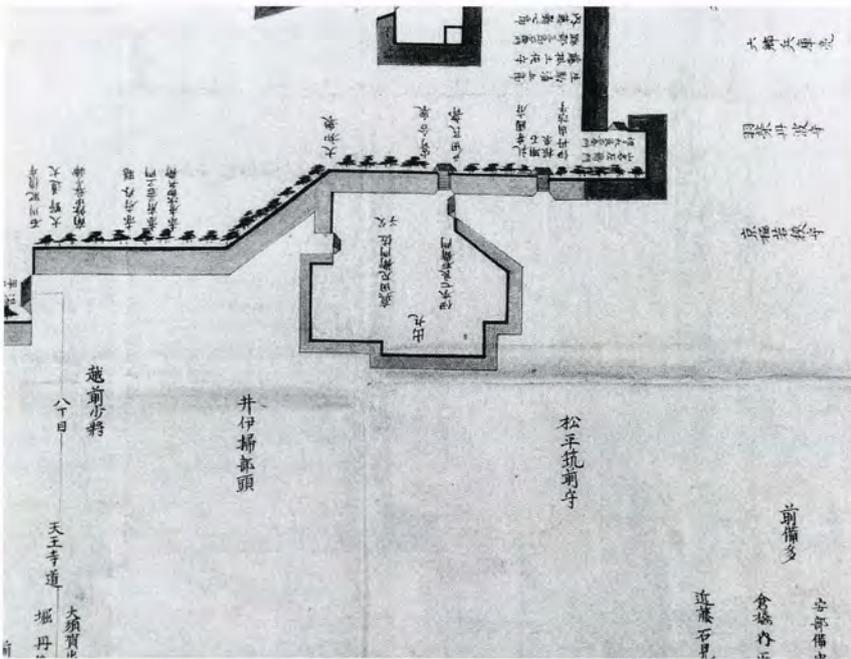
18

末森合戦図

一枚

河野文太郎写
文政十一年
三六・〇×五二・〇
館蔵

天正十二年(一五八四)三月、秀吉と家康が小牧・長久手で衝突し、この合戦の北陸版として、能登の末森城(現押水町)において佐々成政と前田利家が激突することになる。本図は合戦場となった末森城の各郭の状況をはじめとして、前田軍と佐々軍の陣取りの様子が描かれている。この合戦で利家を送り出すまつ、末森城を守る奥村永福夫妻の活躍が、後生物語られることになる。

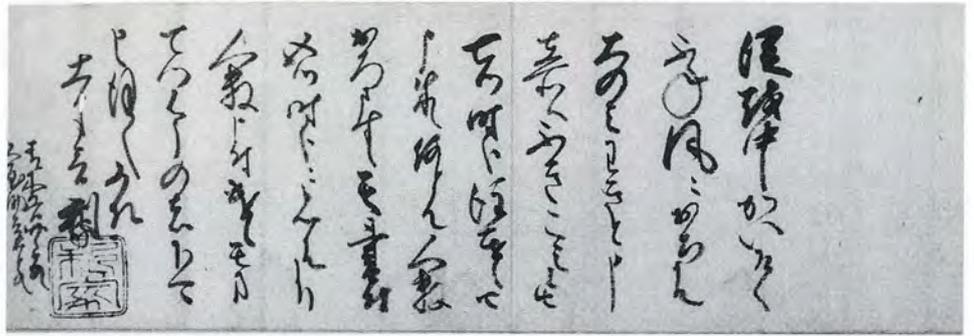


19

大坂冬御陣図(部分) 一枚

おおさかのお冬のこじんず
年代未詳
一一三・〇×一一一・〇
館蔵

慶長十九年(一六一四)大坂城冬の陣における陣立図。徳川方、豊臣方ともに、有名な武将の名前を見ることができ、大坂城の二つの戦についてはさまざまな形で史料が残されているが、とくに陣立図は多くの写しが存在している。この図からも、前田利常が真田丸の最前線に陣取っていたことがわかる。



23 前田利家印物 一通

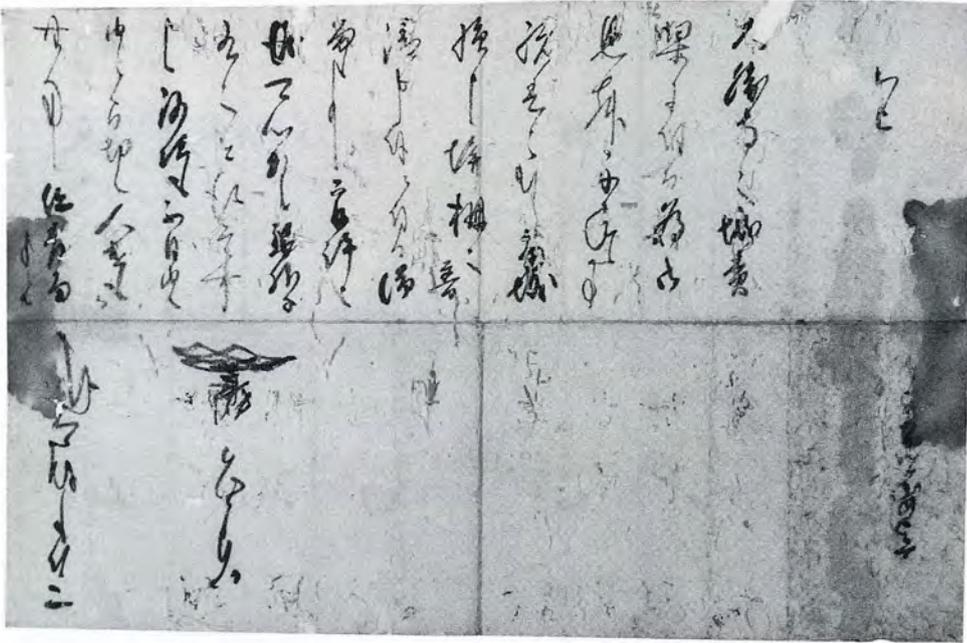
折紙
 (天正十二年)十一月三日
 二九・五×四五・五
 館蔵

史料21と同様、未森合戦の後の前田・佐々両軍の緊張状態を示すもので、越中の船が能登大吞(七尾市)の海岸に漂着したのに対する処理を命じたものである。

24 前田利長書状 一通

折紙
 (慶長五年)八月五日
 三四・五×五一・〇
 館蔵

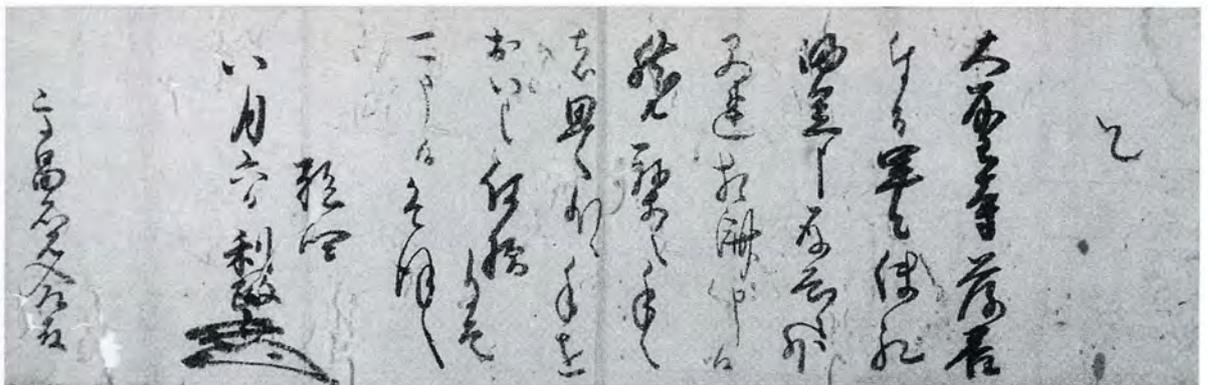
大勝(聖)寺城攻め後、前田利長が高畠定吉に攻め取った同城の塀・柵等の普請のため滞留の旨を伝えているもの。
 同年十月大聖寺を含めた江沼・能美郡は利長の所領となり、大聖寺城には城代として太田長知を置いた。



25 前田利政書状 一通

折紙
 (慶長五年)八月六日
 二九・五×四六・〇
 館蔵

高畠定吉より出された大聖寺戦落着を祝う報に対する、前田利政の返報である。利政軍も参戦しており、同軍に手負いが思いのほか多かったことを記している。
 利政はこの直後、関ヶ原に赴かず、能登の領地を没収されている。



写真掲載史料積文

6 (慶長三年) 九月五日 豊臣氏四大老連署状

以上

態以飛脚令申候

一、御無事之儀、最前加藤主計(清正)

手前二て可仕之旨、被 仰出候、雖然

加主手前難調ニ付而者、何之手(加藤清正)

前二て成共、可被相済之旨候条、

急度相調候様ニ、御才覚肝

要候、不可有山断候事

一、御無事之様子、朝鮮王子

相越候へハ尤候、不相越候共、御調物二て

可被相究候、日本御外聞迄候間、

御調物多少之段者不入事候間、

各相談候て、可然之様ニ可被相究候事

一、冬中ニ此方へ被得 御意儀も、

はか行間敷候間、不及御伺

可被相済候、御無事と被 仰出候

上者、御調物にても、王子にても、

如相調可被相究候事

一、各迎舟之儀、太閤様被 仰付候(豊臣秀吉)

新艘百艘、其外諸浦之舟式

百艘、都合三百艘、追々被差遣候事(備前家康)

一、内府、輝元、秀家、至手轉多(宇喜多)

下向候而、各帰朝之儀可申付之由

候処、人数不入之由、被申止候間、

先遠慮候、然間安芸宰相、(毛利秀元)

浅野彈正少弼、石田治部少輔(長忠)

両三人被遣之候、其方様子ニより、
渡海候而成共、可被相談之旨候(候脱カ)
猶追々可令申、恐々謹言

(慶長三年) 九月五日 輝元(花押)
(毛利)

秀家(花押)
(宇喜多)

利家(花押)
(前田)

家康(花押)
(徳川)

毛利老岐守殿(元種)

高橋九郎殿(長母)

相良宮内太輔殿(東二祐兵)

伊藤民部太輔殿(忠忠)

嶋津又七郎殿(種長)

秋月三郎殿

7 天正十三年七月二十八日 前田利家起請文

天罰起請文之事

一、今度此方へ同心□□□□、無二(之処カ)

□□□□問敷候、万一表裏候者、(如在有カ)

申頭可及断候、右忠節をいたつらニ

成候而、父子三人切腹為左申間敷事、

一、以書付申談知行方之事、以来共相違

有間敷事、縦知行方御計策被

遣候共、其方へ申談候知行方、某及御

断、知行させ可申事、付、自然此調儀

ほくれ候者、右ニ如申談、於当国急度(加賀国カ)

か、へ可申事、(羽柴)

一、秀吉様御判形、縦時日延候共、頂

載させ可申事、(藏)

一、其方居城、以来共相違有間敷候事、
付、其方法体之儀候間、如此間、私宅
可被居事、
(御水部) 湯山か守山か、
右之条々、若於偽者、上者梵天・帝
一、湯山か守山か、
積、下四大天王、惣而日本国中大小神
祇、取分愛宕・白山・八幡大菩薩・日光・
月光・扱者氏神各御罰籠蒙、今生
にてハ白癩・黒癩病受、来世二てハ無
間二可墮罪者也、仍起請文如件、
天正十三年七月廿八日 前田利家(花押)
(前田)
菊右入道殿
同十六郎殿
御宿所

9 (文祿) 十二月三日 前田利家印物

以上

去年名護屋へ

相詰候船方共

てまちなの中

七つき斗五拾

表ツ、二相定

由候、右如約束

令算用宜敷

可相済候也

十二月三日 利家(印)

石河河北

惣きも人中

10 (慶長五年) 四月十日 芳春院寄進状
のとわしまれんこう寺、ふるやしき、
しんやしきもんせん二けんともに、
たかひやう物成七ひやうは、われ
きしん申候ま、さういあるましき候
きやうちやう五年四月十日
返々さをい
あるましく候
一ふて申候
そのてら
やしき
もんせん
二けん
ともに
まへ
より
申つけ候
ことく
さをい候ましき
との事
大くわんしゆ
に
此文ミセ
られ候へく候
四月廿六日 (黒印)
れんこうじ ほうしゆんいん
(宛書)

10 慶長五年四月二十六日 芳春院寄進状

返々さをい

あるましく候

一ふて申候

そのてら

やしき

もんせん

二けん

ともに

まへ

より

申つけ候

ことく

さをい候ましき

との事

大くわんしゆ

に

此文ミセ

られ候へく候

四月廿六日 (黒印)

れんこうじ ほうしゆんいん

(宛書)

20 (天正九年) 十月二日 織田信長朱印状

猶々、府中其方

要害並下々私

宅共、無異儀入

念候て

可相

渡候事、肝要候也

其方事、能登国

並々知行尔申付候

条、越前国遣之、

知行事者、菅屋

九右衛門尉二申付候、可

成其意候、当年所

務之儀者、其方可

申付候、自来年

可相渡候、次妻子之

儀、急度其国へ

可引越候、不可由断候、

為其九右衛門尉、至

越前近口差越候、

可成其心得也

十月二日 信長(宋印)

前田又左衛門尉殿

五郎兵衛殿之内

三番 五郎兵衛殿

四番 長意

山口次右衛門

五番 伊藤勝兵衛

木村作右衛門

但藤十郎内

六番 中嶋新兵衛組 鉄炮十挺

五郎兵衛殿之内

以上

右いつれも十日番無懈怠可被相勤者也

十一月十一日(印)

22 十月二十六日 佐々成政判物

其表敵方棟取之

様子念を入聞届

飛脚越候事委細

相意得候、定而向寒

可被候条越前人数

令在陣事候へ者

有之間敷候歟今少々

事候条注不及申候、

其許番に不可有

油断候、恐々謹言

十月廿六日 成政(花押)

河地助二郎殿

河地三四郎殿

大野源十殿

河地三藏殿

23 (天正十二年) 十一月三日 前田利家印物

從越中かいそく

ふね風におち候て

大のミわきと申

在所へふきこみ候由

七ツ時分注進候由

申来候、何とて人数

おろさず候、其書付

五ツ時分一見候て者より

人数申付遣候、其方

てつはうの者下可

申候、謹言

十一月三日 利家(印)

青木善四郎との

大屋助兵衛との

24 (慶長五年) 八月五日 前田利長書状

(宛書)

「高畠石見守殿」

以上

大勝寺之城責

果に付向為御

見舞示承之事

祝着之至候、当城

損申柵柵之普

請申付三付而滞

留候事候、爰許之

儀可心安候替様子

有之者得意可

申候、路路も不自由之

由候間切々人遣も御

無用候、但差当事候者

可被申越候、恐々謹言

八月五日 利長(花押)

25 八月六日 前田利政書状

以上

大聖寺落着

付而軍之使礼

満足申存知之外

早速相済申候

然共我等之手之

者思之外ニ手を

おい申候、何様自是

可申候、恐々謹言

孫四

八月六日 利政(花押)

高畠石見人道殿

21 (天正十二年) 十一月十一日 前田利家印物

石動山番手之次第

一番 小塚藤十郎 鉄炮廿五挺

但藤十郎内

二番 杉小左衛門組 鉄炮十挺

出品目録

借用資料

番号	名称	作成年代	作成者等	形態	方量	員数	所蔵
1	前田利家画像	安土桃山、江戸時代初期	未詳	紙本著色	六〇・〇×三八・〇	一幅	金沢市中山家
2	前田利家画像複製	明治時代	未詳	紙本著色	六〇・〇×三八・〇	一幅	金沢市中山家
3	伝前田利家着用帷子	未詳	未詳	帷子	丈一四五・〇×桁七〇・〇	一通	金沢市中山家
4	芳春院寄進状	慶長五年四月十日	花押(芳春院)	切紙	三三・五×二二・五	一通	輪島市蓮江寺
5	芳春院寄進状	(慶長五年)四月二十六日	はうしゆんいん(芳春院)れんこうじ(蓮江寺)	折紙	三五・〇×五〇・五	一通	輪島市蓮江寺
6	前田利常安堵状	元和四年十月二十八日	松平筑前守利光(利常)鳳氣至郡蓮江寺	折紙	四〇・五×五七・五	一通	高岡市長光寺
7	利長公画像	江戸時代前期	未詳	絹本著色	八四・二×三三・五	一幅	七尾市長齡寺
8	前田利春画像等	未詳	未詳	写真	三四・五×五一・〇	四枚	前田育徳会尊経閣文庫
9	豊臣氏四大老連署状	(慶長三年)九月五日	(毛利)輝元他三名、毛利吉成守(吉成)他五名	切統紙	一五・五×七三・五	一卷	前田育徳会尊経閣文庫
10	織田信長朱印状	(天正九年)十月二日	(織田)信長、前田又左衛門尉(利家)	折紙	二九・五×四五・五	一通	金沢市河地家
11	佐々成政判物(越前人数二付)	十月二十六日	(佐々)成政、河地助二郎他三名	統紙	二八・〇×八一・五	一通	前田育徳会尊経閣文庫
12	前田利家起請文	天正十三年七月二十八日	前又左利家、菊石入道、菊池石衛門入道、同十六郎(安信)	紙本墨書	一〇七・〇×四七・九	一幅	前田育徳会尊経閣文庫
13	伝芳春夫人親筆達磨図	未詳	伝芳春院筆	繪製	三九・四×三四・七×一一・〇	一幅	前田育徳会尊経閣文庫
14	未森城模型	伝元禄年間	未詳	絹本著色	七八・二×四二・二	一幅	成巽閣
15	芳春夫人尊像	明治二十五年	篠原探谷筆	紙本著色	一四一・七×五五・一	二幅	成巽閣
16	未森陣之図(天正十二年)	明治二十五年	柳坊平友輔筆	紙本淡彩	一六六・二×三〇〇・九	六曲二双	成巽閣
17	大坂冬陣図屏風(慶長十九年)	江戸時代	加州住永国作	鏡	一三・六×二九・〇×二六・〇	一雙	東京国立博物館
18	海賦文象嵌鏡	江戸時代	加州住高次作	鏡	一一・九×二八・〇×二五・五	一雙	東京国立博物館
19	獅子文象嵌鏡	伝戦国時代	未詳	鏡	一一・九×二八・〇×二五・五	一雙	穴水町歴史民俗史料館
20	亀甲紋鏡	江戸時代前期	加州小松住氏家作	鏡	一三・〇×二八・〇×二四・〇	一雙	金沢卯辰山工芸工房

館蔵史料

〈文書〉

番号	名称	作成年代	編著者等(差出宛名)	形態	方量	員数	請求番号
21	前田利家印物(越中海賊船二付申付)	(天正十二年)十一月三日	(前田)又左利家、青木善四郎(信照)、大屋助兵衛(勝重)	折紙	二九・五×四五・五	二	高島家文書
22	前田利家印物(石動山番手之次第)	(天正十二年)十一月十一日	印(利家)	折紙	二九・五×四三・〇	二	高島家文書
23	横山長知申付状(武者舟相調二付)	(文禄)七月二十九日	横山長知、横山大膳長知、高石州(高島石見守定吉)	折紙	二九・〇×四六・五	二	高島家文書
24	前田利家印物	(文禄)十二月三日	(前田)利家、石河河北惣きも入中	折紙	三〇・〇×四七・〇	二	高島家文書
25	前田利長書状(大聖寺城責果之御見舞二付)	(慶長五年)八月五日	(前田)利長、高島石見守(定吉)	折紙	二九・五×四六・〇	二	高島家文書
26	前田利政書状(大聖寺落着之報知二付)	(慶長五年)八月六日	(前田)孫四利政、高島石見入道(定吉)	折紙	二九・五×四六・〇	二	高島家文書
27	前田利常朱印状	慶長十八年九月二日	筑前守利光(利常)、加州国中在々肝煎惣百姓中	折紙	三九・五×五六・五	二	高島家文書
28	前田利長判物(資材、百姓しまり等二付)	(慶長)九月二十八日	花押(前田利長)、高島石見(定吉)他二名	折紙	三四・〇×五一・〇	二	高島家文書
29	大坂夏之陣前夜平野きわ書状	(元和元年)五月六日	平野きわ、半三	折紙	二五・〇×一八・五	二	高島家文書
30	利長様高岡二テ御逝去之節御書置之写(慶長十六年五月十五日)	延宝十三年	肥前守利長、前田対馬(長種)他四十六名、寺岡与兵衛写	袋綴	二二・〇×一六・五	二	高島家文書
31	革命四戦図断	元禄十三年	有沢永貞撰	袋綴	二二・〇×一六・五	二	高島家文書
32	大坂御陣首帳并討死交名帳	明和三年	政在筆	袋綴	二二・〇×一六・五	二	高島家文書
33	東邸沿革図譜	文政六年	富田景周著	袋綴	二二・〇×一六・五	二	高島家文書
34	尾張英傑画伝	嘉永五年	春江小田切忠近編、画	袋綴	一八・五×一一・五	二	高島家文書
35	荒子城址取調書	明治二十一年	前田家編輯方編	袋綴	二二・〇×一六・五	二	高島家文書
36	熱田加藤氏系図	明治二十四年写	前田家編輯方写	袋綴	二二・〇×一六・五	二	高島家文書
37	御墓誌等	明治二十四年写	前田家編輯方写	袋綴	二二・〇×一六・五	二	高島家文書
38	芳春院等書翰写	明治年間	前田家編輯方写	袋綴	二二・〇×一六・五	二	高島家文書

〔 〕内は内容年代、()内は推定年代を示す

あとがき

特別展「前田家三代」開催にあたり、東京国立博物館、財団法人前田育徳会から全面的な協力をいただきました。そのほか、多くの機関の皆さまに資料提供、選定のご協力をいただきました。そのご芳名を記し、厚くお礼申し上げます。

(敬称略・五十音順)

東京国立博物館

池田 宏、神庭 信幸、救仁郷秀明、小松 大秀、

竹内奈美子、田沢 裕賀、玉蟲 玲子、松嶋 雅人、

松原 茂、松本 伸之、和田 浩

国立歴史民俗博物館

文化庁

行徳真一郎

石川県七尾美術館

穴水町立歴史民俗資料館

金沢卯辰山工芸工房

財前田育徳会尊経閣文庫

菊池 紳一

歴史博物館重要文化財(財)成巽閣

輪島市蓮江寺

高岡市長光寺

七尾市長齢寺

小松市那谷寺

中山周比古

近世史料館特別展

前田家三代 図録

発行日 平成十三年八月二十日

編集 発行 金沢市立玉川図書館近世史料館

石川県金沢市玉川町二二〇

印刷 田中昭文堂印刷株式会社

石川県金沢市打木町東一四四八番地



金沢市立玉川図書館 近世史料館



大坂冬陣図屏風 (東京国立博物館蔵)